

ＪＡ自己改革推進レポート（ＪＡ鳥取いなば）１１月号

１． ２０２２年度家の光愛読者のつどい 若桜支部山本幸子さん最優秀賞

ＪＡグループ鳥取家の光・日本農業新聞協議会は１０月１８日、琴浦町で「２０２２年度家の光愛読者のつどい」を開いた。記事活用体験発表では、ＪＡ鳥取いなば女性会若桜支部の山本幸子さんが最優秀賞に輝いた。

山本さんは新型コロナウイルス禍でＪＡ女性会が停滞する中、「家の光」を活用して仲間で工夫して活動を継続。会員に呼びかけて自発的な活動を促し、会員拡大につながったことなどを発表した。



２． 初のスマホ教室開催

ＪＡ鳥取いなばは１０月１９日、ＪＡ管内で初めてスマホ教室を開いた。鳥取市の河原支店と八頭町の郡家支店で約２０人が参加した。

ＪＡバンク鳥取の地域貢献活動として本年度スタート。デジタル社会での情報格差対策などとして、組合員・利用者のニーズを見込む。また、ＪＡと組合員などとの接点や、ＪＡバンクアプリ、ＪＡネットバンクの普及でも効果的な活動となる。



３． 美保小学校らっきょう加工所社会科見学

鳥取市立美保小学校の３年生１０４人は１０月２８日、ＪＡ鳥取いなば福部らっきょう加工所を社会科見学で視察した。児童は特産「らっきょう」の魅力を学んだ。ＪＡ福部支店の職員がらっきょうの選果から出荷作業までの工程を説明。児童は学習用タブレットで写真や動画を撮るなど熱心に学んだ。

